

武田の杜 価値向上構想

森と共に創る未来

～特別な癒やしと体験を、武田の杜で～

この森は、ただの森ではありません。

ユネスコエコパークとして認定され、山梨の豊かな自然を守りながら、

地域と世界の未来に貢献しています。

ここでは、レクリエーションや森林浴を楽しみながら、

甲府盆地の壮大な景色や春の桜、紅葉など、四季折々の草木を観賞することができ、

訪れるすべての人々に新たな発見と深いインスピレーションをもたらします。

子どもたちには自然の大切さを伝える教育の場を提供し、

森に関わる人々は、自然の恵みを人々に還元するため日々研究しています。

森は空気を清め、水を浄化し、多様な生物との共生を可能にしています。

私たちは、この森から得られる恵みを享受しつつ、

地域と一体となって自然を大切にし、共に成長する未来を描いています。

ここで育まれる活動一つ一つが、次世代に価値ある遺産を残し、

私たちの未来を創造していくのです。



武田の杜

はじめに

1. 本構想の位置づけ	1
2. 武田の杜価値向上検討会議	1

第1章 武田の杜について

1. 歴史と概要	3
2. 主な施設と利用状況	6
3. 利用状況	11

第2章 構想策定の背景

1. 構想の背景	13
2. 武田の杜の魅力	13
3. 武田の杜の現況及び課題	14

第3章 価値向上に向けた構想

1. 構想の考え方	17
2. 価値向上に向けた取り組み	17
(1) 重点視点1：観光資源としてのポテンシャル発揮	
(2) 重点視点2：特別な体験を通じた差別化	
(3) 重点視点3：来園者誘致戦略の強化	
(4) 重点視点4：相互補完の視点による地域連携	
(5) 重点視点5：自然に配慮した維持管理	

第4章 構想の実現に向けて

1. 今後の取り組み方向	26
2. 構想実現後の武田の杜	26

【参考資料】

1. 武田の杜価値向上検討会議委員名簿	27
2. 武田の杜価値向上検討会議開催記録	27

はじめに

1. 本構想の位置づけ

山梨県では、県政運営の基本方針である『山梨県総合計画』に基づき、観光産業の高付加価値化や森林空間の高度活用を推進しています。また、県の森林・林業・木材産業行政の指針である『やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン』に基づき、県有林の観光・レクリエーション利用を促進し、地域活性化のための森林空間の利活用を進めているところです。

県内では「上質な空間」づくりに向け、富士北麓をはじめとする各地域で高付加価値化の取り組みが進む中、甲府市北部エリアにおいても同様に高付加価値化を図るため、県有林の中でも整備された快適な森林空間の提供が可能な『武田の杜保健休養林（以下「武田の杜」という）』の価値向上のあり方について検討し、「森と共に創る未来～特別な癒やしと体験を、武田の杜で～」をコンセプトに、その基本的な方向性を取りまとめたものが本構想です。

2. 武田の杜価値向上検討会議

武田の杜の価値向上に向けた検討に当たり、観光資源としての武田の杜のポテンシャルを活かし、今後の利活用に関する全体構想を策定するため、有識者や地元関係者等の計15名で構成する検討会議を設置しました。

検討委員の皆様には、武田の杜の現地調査のほか、計4回にわたる検討会議で幅広い観点から議論していただき、様々な御意見を頂戴しました。

第1章 武田の杜について

第1章 武田の杜について

1. 歴史と概要

(1) 武田の杜の歴史

「武田の杜」は、昭和 48 年に設置された、甲府市の北側に広がる 2,500ha の森林公園です。昭和 25 年に行われた第 1 回全国植樹祭会場となった場所をエリアに含み、広葉樹の植栽や自然植生の復活により豊かな自然が育まれ、その豊かな自然に四季を通じて触れ合うことができます。また、武田の杜の中心施設である「健康の森」からは、富士山や南アルプス、眼下に広がる甲府盆地の眺望を楽しむことができます。

【設置経緯】

昭和 48 年の置県 100 年を記念し、青少年やその他の県民が自然に親しむ環境を提供することにより、健康の増進及び豊かな情操のかん養を図り、併せて森林・林業の役割について啓発するために、甲府市山宮町片山の県有林 195ha に「健康の森」が設置されました。健康の森では、都市近郊地域で保健休養機能が発揮できる森林の造成や、健全な森林レクリエーション活動の場となる遊歩道等の施設整備が行われました。

昭和 52 年度には、健康の森から甲府市街地北部に広がる国有林や、要害山を経て愛宕山こどもの国に至る里山一帯、鳥獣センターなど既存施設を包含した 2,500ha の区域を「武田の杜」として整備する基本構想が策定されました。この構想に基づき、昭和 53 年度以降、サービスセンター、キャンプ場、樹木見本園、森林学習展示館等の整備が行われました。

平成 25 年には森林セラピー基地の認定を受けたほか、近年は、甲武信ユネスコエコパークのインフォメーションセンターの設置やマウンテンバイクコースの整備が行われています。

【根拠法令】

山梨県立武田の杜保健休養林設置及び管理条例（昭和 54 年 3 月）

【武田の杜（健康の森）における土地利用制限（法令、計画等）】

- 森林法 土砂流出防備保安林、保健保安林に一部指定
- 自然公園法 秩父多摩甲斐国立公園（普通地域）に指定
- 鳥獣保護管理法 片山鳥獣保護区に指定
- 都市計画法 甲府都市計画区域（市街化調整区域）に一部指定
- 県有林管理計画 保健休養林（良好な自然環境を有し、レクリエーション活動等に適した林地）に指定
- 甲武信ユネスコエコパーク緩衝地域

武田の杜位置図



健康の森拡大図



（２）心身の癒し機能（森林セラピー）

恩賜林御下賜 100 周年を機により魅力的な森林公園にするため、森の癒し機能を最大限活用し、心身ともに健康になれる場として森林セラピーを本格的に導入する方向性を打ち出し、平成 23 年度から平成 26 年度にかけて再整備を実施しました。

この再整備にあたっては、森林の「癒し効果」を心や体の健康増進に活用する「森林セラピー」を通じた利用促進を図るため、平成 25 年 3 月に「森林セラピー基地」の認定を取得しました。森林セラピー基地名称を武田の杜保健休養林「健康の森」とし、森林セラピーを体験できる公園としてリニューアルし、平成 26 年 5 月にグランドオープンしました。

令和 6 年 3 月時点での武田の杜森林セラピーガイドの認定者数は 26 名、令和 5 年の森林セラピー実施回数は 52 回、参加者数は約 340 人となっています。

（３）甲武信ユネスコエコパーク*¹の情報発信機能

令和元年 6 月、山梨県（甲府市、山梨市、大月市、北杜市、甲斐市、甲州市、小菅村、丹波山村）、埼玉県（秩父市、小鹿野町）、長野県（川上村）、及び東京都（奥多摩町）の 1 都 3 県にまたがる総面積は 19,060ha に及びエリアが、ユネスコエコパークに登録されました。

ユネスコエコパークは、「核心地域」、「緩衝地域」、「移行地域」の 3 つの区域にゾーニングされ、武田の杜の多くは「緩衝地域」内にあります。

武田の杜のサービスセンターは、甲武信ユネスコエコパークインフォメーションセンターにも位置づけられており、地域の優れた自然環境について、その価値を内外へ発信しています。



甲武信ユネスコエコパーク ゾーニング図



【ユネスコエコパークの地域区分】

- 「核心地域」・・・法的にも最も厳しく保護され、長期的に保全される地域
- 「緩衝地域」・・・核心地域を保護するための緩衝的な機能を果たし、実験的研究、教育や研修、森林セラピー、エコツーリズムなどを通して、自然の保全や持続可能な活用への理解の増進、担い手育成が行われる地域
- 「移行地域」・・・人々が居住し、生活を営み自然環境と調和した持続可能な地域社会の発展のためのモデルとなる取組が行われる地域

*1「ユネスコエコパーク」

正式名を生物圏保存地域（BR：Biosphere Reserve）といい、ユネスコ人間と生物圏（MAB：Man and the Biosphere）計画の枠組みに基づいて、ユネスコによって国際的に認定された地域。日本では親しみをもってもらうために「ユネスコエコパーク」と呼んでいる。

世界遺産が、手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的とする取組で、2022年6月時点での世界のユネスコエコパークの登録総数は、134カ国、738地域。国内登録地は10地域。

2. 主な施設と利用状況

武田の杜には、健康の森をはじめとする複数の施設（下表）が設置されています。

区分	面積	主要施設
健康の森	195ha	サービスセンター、森林学習展示館、展望休憩室、キャンプ場、遊歩道、癒しの小径、林間広場、野鳥観察小屋、四阿、展望台、自由広場、岩石園、水飲場、手洗場、トイレ、駐車場等
樹木見本園	6ha	樹木、遊歩道、四阿、休憩舎、水飲場、トイレ
幹線遊歩道	23.6km	休憩舎、水飲場、トイレ
鳥獣センター	1ha	第1展示館、第2展示館、野鳥園

※このほか、要害山、湯村山、深草観音、千代田湖等を含み、その全体面積は約2,500haに及びます。

武田の杜では、以下の目的に沿って施設の整備・管理をしています。

- 多くの県民が自然に親しむことができる環境の提供
- 健康の維持・増進及び豊かな情操のかん養
- 施設を活用したイベント、レクリエーションや野外活動等を通じて、森林・林業の役割、動植物などについての知識や情報を習得する機会の提供

(1) 健康の森について



① 武田の杜サービスセンター

武田の杜の受付と「甲武信ユネスコエコパークインフォメーションセンター」を兼ね、各種展示や植物や野鳥などの観察会、研修室での各種講座の開催など、自然環境を活用したイベントや学習会が開かれています。



② キャンプ場

日帰りや宿泊で自然に親しみ、バーベキュー等を楽しむことができます。

○デイキャンプ場	7サイト	(運営期間4月～11月)
○ログキャビン	3棟	(運営期間5月～10月)
○キャンプ場	12サイト	(運営期間5月～10月)



キャンプ場



ログキャビン

③森林学習展示館・展望休憩室

森林・林業を多くの方に知っていただくための施設で、山梨県の地形模型などが展示されているほか、様々な木に直接触れて、木の違いを感じ取ることができます。また、展望休憩室は県産の木材がふんだんに使われており、南アルプスの眺望を楽しむことができます。



森林学習展示館



森林学習展示館内部



森林学習展示館内部



展望休憩室

④片山

健康の森内で最も標高の高い場所で、平成 24 年に当時の天皇・皇后両陛下が行幸され、甲府盆地を囲む恩賜林を一望されました。



片山山頂



片山からの眺望

⑤セラピー基地と遊歩道（セラピーロード）

「癒しの小径・中の平コース」、「癒しの小径・西の平コース」、「五感の森コース」、「外周コース」の4コースが設置され、森林内の散策に加え、点在する展望スポットでは市街地の眺望が楽しめます。



五感の森コースからの眺望



西の平からの眺望

⑥野鳥昆虫観察小屋

癒しの小径西の平コースにある野鳥や昆虫を観察するための施設です。施設の窓からは、近くに設置された野鳥の餌台や水場に集まる様々な野鳥を観察できます。



⑦MTB（マウンテンバイク）エリア

令和5年度に健康の森内の第2広場に新設整備（延長 1,197m）し、令和6年5月から供用を開始しており、初心者から中級者まで楽しむことができます。



（2）その他の主な施設について

①鳥獣センター

県内唯一の傷病鳥獣の保護施設であり、野生鳥獣の標本や剥製、関係資料などが展示され、野生鳥獣の生態などを学ぶことができます。



②幹線遊歩道

武田の杜には 23km に及ぶ遊歩道が整備されており、甲府市近郊でありながら、静かな森林のなかでの森林浴が楽しめます。また、近年はトレイルランニングレースも開催されています。



八王子山遊歩道

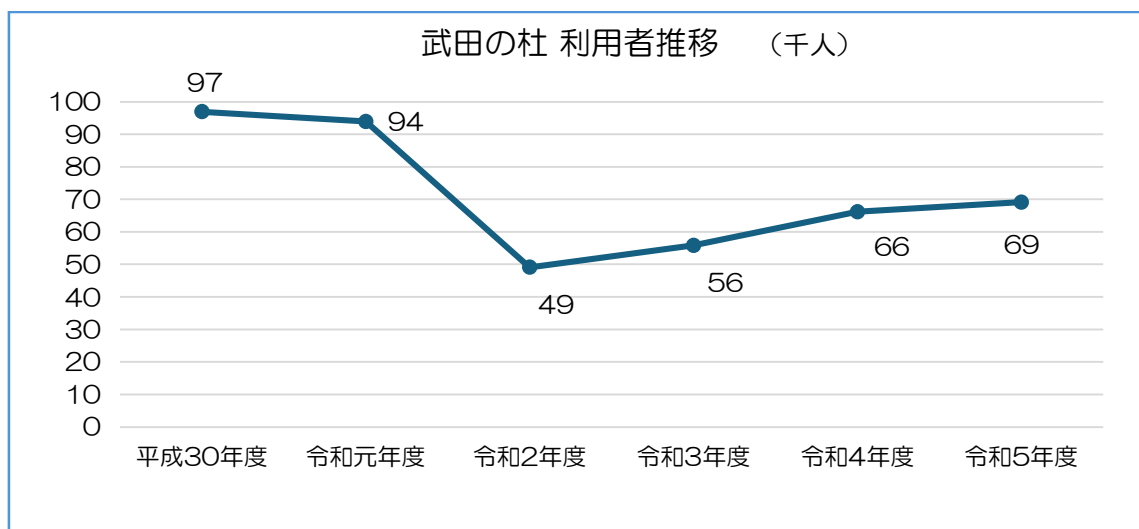


要害山遊歩道

(3) 利用状況

武田の杜の利用者数*は、コロナ禍により令和元年度を境に落ち込んだものの、近年は微増傾向となっています。

*健康の森、鳥獣センター、幹線遊歩道の利用者数の合計



第2章 構想策定の背景

第2章 構想策定の背景

1. 構想の背景

武田の杜は、甲府盆地の眺望に加え、富士山や南アルプス、昇仙峡から奥秩父山塊の山並みを見渡すことができ、四季を通じて豊かな自然と触れ合える森林公園です。これまでも、野外レクリエーション活動や癒やしの森としての環境整備や自然保護に向けた環境教育の場としての充実を進めてきました。

しかし、健康の森を当初整備してから 50 年以上の年月が経過しており、改修工事が実施された一部の施設を除いて老朽化が目立ってきています。

このため、とりわけ健康の森における既存施設の更新や利用が低迷する施設の見直し、核となる施設・サービスの整備を進めることで、武田の杜の価値向上と周辺地域の活性化につなげることを目的として検討を行いました。

2. 武田の杜の魅力

武田の杜は豊かな自然環境と優良な景観を有する森林公園であり、市街地に近い立地であるため、四季を通じて気軽に野外レクリエーションを楽しめる場となっています。

健康の森に点在する展望地からは富士山や南アルプス、遠くは北アルプスを望むことができます。眼下に広がる甲府盆地の風景は素晴らしく、夜景の美しさは特筆すべきものがあります。

広大な敷地内には多くの遊歩道が整備されており、森林セラピーや森林散策に利用することができるほか、キャンプ場やバーベキュー施設、MTB コースといったアクティビティ施設も整備されていることから、武田の杜は非常に高い集客ポテンシャルを持っています。



良好な眺望



森林セラピー

3. 武田の杜の現況及び課題

既存施設等の現況及び課題を以下にまとめました。

【森林学習展示館】

展示物の内容や展示方法について見直しが必要な時期に来ており、建物の内外についても老朽化による破損が見られます。また、駐車場との間も距離があるため、アクセスを含めた施設等の改善が必要です。

【眺望ポイント】

木々が成長して視線を遮っており、優良な眺望が著しく損なわれています。また、デッキなどが整備されていないため、雨天後には足元が悪い状況となっています。

(片山)

眺望景観は武田の杜の重要な地域資源です。片山の山頂は東西南北360°どの方面にも視界が通り、遠くは北アルプスまで見通せる場所ですが、近年は樹木や下草の成長によって視界が遮られています。この他にも、眺望の良い場所があり、活用に向けた検討が必要です。



片山からの富士山（2011 年）



片山からの南アルプス（2011 年）



片山展望地の現状

【森林セラピー】

健康の森には森林セラピー利用者が県内外から多く訪れており、東京からのツアーも組まれるなど今後の集客が期待されていますが、近年増加しているヤマビル被害によってツアーが中止になるなど、対策が急務となっています。



森林セラピー（森の中での安息タイム）

【アクセス道路】

健康の森へのアクセスルートは千代田湖を経由する道路と、湯村・山宮を経由する道路の2ルートに限られます。どちらのルートも道幅が狭い区間があり、夜間の照明が未整備であるほか、誘導案内標識の設置状況も不十分です。



アクセス道路の状況 湯村側(左)千代田湖側(右)

【屋外トイレ・キャンプ場・バーベキュー場】

トイレやシャワー室、炊事場などの施設が老朽化しており、キャンプサイトの区画レイアウトなどについてもキャンプスタイルの変化により見直しが必要な状況にあります。また、レンタル品などについても見直しが必要です。

【情報発信】

ホームページがスマートフォンに未対応で、SNS による情報発信も充分とは言えません。

【遊歩道・園内道路】

遊歩道上の案内サインや標識などが老朽化しており、未設置の区間も多くあります。また、休憩用のベンチや転落防止用の木柵が老朽化している箇所もあります。園内道路も狭い区間や照明が無い区間があるため、修繕や改良等が必要です。

【その他】

夜景観賞などをPRしていくためには、照明施設の整備が必要となります。

第3章 価値向上に向けた構想

第3章 価値向上に向けた構想

1. 構想の考え方

武田の杜は、「森」を通じて地域の自然の豊かさを体感できる点に最大の価値があります。

このため、武田の杜の価値向上に向けた基本的な考え方として、豊かな自然の中での活動や遊びなどを通して人々が癒やされ、特別な体験ができる場として、また、自然環境との共生について理解を深める場として利活用を進めていきます。

これにより、甲府市北部にある眺望景観の素晴らしい身近な森として県民から親しまれる場にするとともに、県外からも訪れてもらえるよう、周辺観光地と連携しつつ特別な癒やしと体験を提供できるエリアとすることを目指します。

2. 価値向上に向けた取り組み

(1) 重点視点1：観光資源としてのポテンシャル発揮

これまでの保健休養・学習施設としての機能に加え、豊かな森林環境を活用し、自然を保持しながら、観光スポットとしても訪れていただけるような機能の拡充を検討していきます。

①誰もが快適に利用できるユニバーサルな施設の整備

武田の杜は、市街地に近接しながら甲武信ユネスコエコパークに認定された豊かな森林環境を有する一方、気軽にキャンプやバーベキューを楽しめる施設も有しています。しかしながら、施設の老朽化が目立ってきていることから、衛生面や安全面などに配慮し、誰もが快適に利用できるユニバーサルな施設の整備を進めていきます。

□事業イメージ

- ・施設・コース案内表示等のデザインの統一
- ・清潔なトイレ、洗面所、シャワー室の整備
- ・休憩スポット・撮影スポットでのベンチなどの整備（ユニバーサルデザインの導入を含む）

②インバウンド等に対応した多言語表示

インバウンド等の新たな利用者層を開拓していくため、多言語での案内表示を充実していきます。

□事業イメージ

- ・案内表示などへの二次元コードを使用した翻訳サービス等の導入

③伝統産業、歴史・文化資産との連携

武田の杜の周辺には、水晶研磨の伝統技術のほか、温泉、武田家ゆかりの寺社などの歴史・文化資産が多く存在しています。これら資産と組み合わせた新しい体験ツアーなどを創出していきます。

□事業イメージ

- ・森林散策や、水晶研磨体験、温泉浴などを組み合わせたツアーの創出
- ・武田神社や烽火台などをルートに組み入れたハイキングツアーの創出



武田の杜遊歩道



武田神社

(2) 重点視点2：特別な体験を通じた差別化

抜群の眺望、夜景、森林セラピー、トレイルラン、野鳥観察などを体験できる強みを生かし、ハード・ソフトともに整備することで観光スポットとしての独自性を確立していきます。

①眺望を生かした施設整備

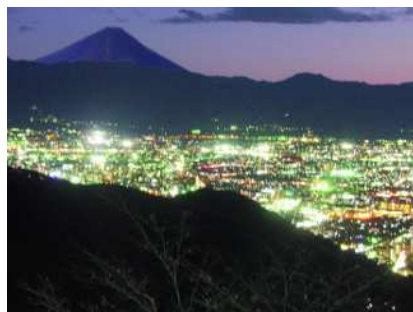
富士山、南アルプスなどの山々、甲府盆地の美しい景観といった、武田の杜の最大の特徴である眺望の良さをより多くの方々が安全快適に楽しめるよう施設の整備を進め、上質な空間として誘客に繋がる付加機能も検討します。

□事業イメージ

- ・主要な眺望ポイントでの展望テラスの整備
- ・眺望を生かしたレストラン・カフェの導入
- ・支障木の除去、眺望ポイントでのベンチなどの整備
- ・夜景・夜桜鑑賞会の開催



武田の杜から見渡す甲府盆地



武田の杜からの夜景

②森林セラピーの環境整備

森林セラピーによる森の癒やしを提供するため、自然を通じた特別な体験を可能とする環境を整備していきます。森林セラピーには多くの利用者が集まり、今後も利用者の増加が期待されますが、近年はヤマビル被害により集客に悪影響が出ているため、高床式のデッキ整備やヤマビル対策の研究などを進めます。

□事業イメージ

- ・森林セラピー用のデッキ整備
- ・ヤマビル対策の研究



森林セラピー



セラピーデッキ（イメージ）

③森林体験、木育及び地域交流の推進

より多くの方が自然に親しめるよう体験プログラムの充実を図るとともに、森林学習展示館やサービスセンターの展示や機能の見直しを行ない、森林散策や森林セラピー以外の森林体験ができる施設へ再整備を検討します。

また、利用者が木に親しむことができるよう、積み木などの木製玩具を設置するほか、木を用いた親子工作などのイベントを充実していきます。イベントの企画にあたっては、内容に応じて地域住民が参加した交流イベントと組み合わせた開催を企画します。

□事業イメージ

- ・積み木や木製玩具の設置、木育イベントの開催
- ・地域交流イベントとの組み合わせ



積み木・木製玩具



木工作イベント



きのこ勉強会

(3) 重点視点3：来園者誘致戦略の強化

武田の杜の価値向上には、県民の認知度の向上と県外の観光客への PR が重要です。情報発信を強化することで、今までの利用者に加え、新たな来園者を呼び込み、併せて施設の展示内容を見直すことで、何度も訪れたいくなる施設を目指します。

①時代に即した情報発信

ホームページがスマートフォンに対応していないなど、情報発信が限定的となっているため、ホームページのリニューアルや SNS の活用により総合的に情報を発信していきます。

□事業イメージ

- ・ホームページをスマートフォンでの表示に対応させ、アクセス情報や、推奨する散策ルート・所要時間、湯村温泉を起点としたトレッキング情報などを紹介
- ・SNS でイベント情報や四季の変化などをリアルタイムに発信するとともに武田の杜内の写真スポットや自然、多様な生物を紹介
- ・首都圏やインバウンド向けのプロモーションの展開

②既存情報媒体の有効活用

県内外に広く PR していくため、ホームページや SNS での情報発信に加え、既存の媒体を活用した PR も強化していきます。

□事業イメージ

- ・甲府駅の観光案内所など主要な観光施設へのチラシの配置
- ・森に癒やしを求める首都圏の自治体などへの森林セラピーツアーの広報
- ・新聞やテレビ、ラジオなどによるターゲット層に応じた情報発信

③アクセス道路の改善

武田の杜へのアクセス道路についても整備を検討するとともに、道路沿いの案内板の見直しを行い、より来園しやすい環境の整備を進めます。

□事業イメージ

- ・千代田湖、湯村温泉経由の道路環境の改善
- ・武田の杜周辺の案内板の見直し



千代田湖側の道路状況



湯村温泉側の道路状況



案内板が見えにくい現況

④森林学習展示館・展望休憩室の活用

長らく更新されていない森林学習館の展示内容を見直し、体験学習の場として活用していきます。また、隣接する展望休憩室の活用方法についても検討していきます。

□事業イメージ

- ・森林学習館の展示内容の見直し
- ・展望休憩室の活用方法の検討

⑤老朽化施設の計画的な改修と更新

森林を楽しむため多くの人が武田の杜を訪れていますが、既存施設の老朽化が目立っている状況です。今後利用者を増やしていくため、誰もが快適に利用できるユニバーサルな施設への改修・更新を実施します。

□事業イメージ

- ・キャンプ場（トイレ、洗面所、炊事場、シャワー室）、バーベキュー場の改修・リニューアル、立地やレイアウトの検討



バーベキュー場



キャンプ場シャワー室



キャンプ場炊事場

(4) 重点視点4：相互補完の視点による地域連携

甲府市北部エリアの観光資源である湯村温泉・昇仙峡と連携し、互いになくものを補完することで観光の相乗効果を生み出します。

①森林セラピープログラムを活かした地域連携

今まで実施してきた森林セラピーと湯村温泉での入浴や昇仙峡観光を組み合わせたツアーを充実させるとともに、湯村温泉宿泊客などへアクティビティとして提供していきます。

□事業イメージ

- ・湯村温泉、昇仙峡と連携したツアーの充実
- ・湯村温泉宿泊客を対象とした翌日のアクティビティとして森林セラピー体験プログラムを提供

②眺望景観を活かした地域連携

甲府市北部エリアの新たな観光コンテンツとして武田の杜の眺望・自然を生かし、湯村温泉と昇仙峡をつなぐ新たな連携プログラムやツアーの創出を図っていきます。

□事業イメージ

- ・湯村温泉宿泊客を対象とした夜景鑑賞プログラムの提供
- ・野鳥観察や朝食の提供など朝活イベントの開催

③アクティビティを活かした地域連携

マウンテンバイクや、キャンプ、トレッキング、トレイルランなど武田の杜で体験できるアクティビティと湯村温泉・昇仙峡との連携を強化していきます。

□事業イメージ

- ・湯村温泉を起点・終点としたトレッキングやサイクルイベントの開催
- ・武田の杜で開催されるイベント参加者への湯村温泉外湯の利用の案内
- ・湯村温泉宿泊客へのデイキャンプ、マウンテンバイクなどのアクティビティの案内



夜桜と盆地の夜景



湯村温泉街



MTB コース

(5) 重点視点5：自然に配慮した維持管理

武田の杜の主役はあくまで自然であり、その保全に留意しつつ長所を生かす施設の維持管理について検討を進めていきます。また、従来からの武田の杜の愛好家にも、より武田の杜に親しんでいただくため、施設の適切な維持管理を行います。

①ニーズに応じた開園時間の柔軟な設定

夜景観賞や朝の野鳥観察など利用者のニーズを把握した上で、ゲートの開閉時間を検討していきます。

②森林浴・ハイキング客が安心して利用できる案内標識と遊歩道等の整備

武田の杜内の案内標識や遊歩道などの施設は経年劣化が進んでいるため、インバウンド需要やハイカーなどの利用者の増加を見込み、施設の再整備を推進します。

案内標識は、統一した躯体仕様とデザインによる整備を進め、老朽化した躯体の更新だけでなく、不足箇所への追加整備や眺望ポイントへの風景解説板や樹名板などの新設も推進します。

武田の杜の遊歩道は全長約 20 km 以上にも及ぶため、遊歩道沿いにベンチや東屋などの休憩施設を配置します。

□事業イメージ

- ・案内標識の改修や多言語表示、不足箇所への追加整備
- ・ベンチ、東屋などの整備
- ・安全施設(木柵、階段など)の修繕・整備



統一した案内標識整備



遊歩道や眺望ポイントに東屋やベンチを整備



③老朽化施設の計画的な改修及び更新（再掲）

森林を楽しむため多くの人が武田の杜を訪れていますが、既存施設の老朽化が目立っている状況です。今後利用者を増やしていくため、誰もが快適に利用できるユニバーサルな施設への改修・更新を実施します。

□事業イメージ

- ・キャンプ場（トイレ、洗面所、炊事場、シャワー室）、バーベキュー場の改修・リニューアル、立地やレイアウトの検討

④ヤマビル対策の研究と実施

武田の杜においては、ヤマビル被害が近年増加しており、森林セラピーの利用者が大幅に減少するなどの悪影響が出ています。また、その影響は森林セラピー以外のレクリエーション利用者にも及んでいます。ヤマビル問題の解決は喫緊の課題となっているため、関係機関などと連携して研究と対策の実施を進めていきます。

□事業イメージ

- 森林セラピー用の高床式デッキの整備
- 獣防止柵の整備
- 森林総合研究所によるヤマビル対策の研究



森林セラピー



鋼製脚 高床式デッキ（森林公園金川の森）

第4章 構想の実現に向けて

第4章 構想の実現に向けて

1. 今後の取り組み方向

武田の杜の潜在的なポテンシャルを最大限に発揮し、地域連携と相互補完ができる環境づくりを進め、「森と共に創る未来～特別な癒やしと体験を、武田の杜で～」の実現に向けて、今後、地域の観光資源との相乗効果を生み出すことができるよう、広く民間事業者等の意見や提案を聞きながら、構想の具体化につなげていきます。

2. 構想実現後の武田の杜

構想の実現により、武田の杜を多くの人々が訪れるようになるだけでなく、湯村温泉・昇仙峡などの周辺観光資源と連携する中で、甲府市北部エリアの高付加価値化、地域の活性化に寄与します。

<構想実現後の姿>

- 癒やし・自然を求める人々が県内外から訪れる
- 眺望・森林を生かした武田の杜ならではのサービスを提供
- 甲府北部地域の観光スポットとして新たな人流を生む



甲府市北部エリアの高付加価値化

【参考資料】

1. 武田の杜価値向上検討会議 委員名簿

氏名	所属・役職
古屋 秀樹	東洋大学国際観光学部 教授
池邊 このみ	千葉大学 グランドフェロー 学術会議 正会員（環境学） 社会構想大学院大学 社会構想研究科 教授
笹本 健次	湯村温泉旅館協同組合 理事長
芦沢 卓夫	昇仙峡観光協会 会長
田野口 善雄	甲府市千代田地区自治会連合会 会長
千野 美智保	山梨交通株式会社 観光バス事業部営業・管理課 係長
村山 カ	山梨県造園建設業協同組合 専務理事 県立武田の杜保健休養林 所長
宮澤 恭子	武田の杜森林セラピー基地運営協議会 ガイド専門部会長
奥本 敬大	スターツ出版株式会社 ブランドソリューション事業部 アカウントグループ マネージャー
石井 秀幸	株式会社スタジオテラ 代表取締役
渡邊 正雄	株式会社山梨中央銀行 地方創生推進部長
後藤 宗隆	甲府市産業部商工観光室観光課 課長
安藤 明範	山梨県知事政策局 理事
小澤 浩	山梨県林政部 次長
眞田 健康	山梨県観光文化・スポーツ部 次長

2. 武田の杜価値向上検討会議開催記録

回	日時	場所
第1回	令和6年 7月16日（火）13:30～15:45	武田の杜サービスセンター
第2回	令和6年 10月11日（金）16:00～17:20	オンライン会議
第3回	令和7年 1月24日（金）13:30～15:50	恩賜林記念館特別会議室
第4回	令和7年 3月19日（水）13:30～15:10	恩賜林記念館特別会議室